

学校教育目標				学校経営の重点				
児童生徒一人一人の人権と個性を尊重し、自立と社会参加に向け、豊かな心と主体的に考え行動する力を養う。				①児童生徒の安全・安心の確保				
				②一人一人の教育的ニーズに対応した教育の充実				
				③交流及び共同学習の実施				
				④体験学習の実施				
				⑤キャリア教育・進路指導の充実				
評価(できている、ほぼできているの割合) A:80%以上 B:60%以上80%未満 C:60%未満						教員結果	保護者結果	評価結果分析
領域	評価の観点	評価項目	No	重点項目	実践目標	評価	評価	
学校経営	開かれた学校づくり	家庭や地域との連携	1	①	保護者や地域住民が参加しやすい学校行事やPTA行事となるよう工夫する。	A	A	職員、保護者ともできていると感じている。
			2	①	家庭や地域の意見や要望を反映するなど、連携・協力して取り組む。	A	A	開校初年度であるが、運動会や学習発表会において、保護者や地域住民からよかったという声をかけていただいた。さらなる行事の内容やあり方を検証し、保護者・地域交流を深め、信頼関係を深めていく。
			3	①	学校ホームページや学校ブログを活用して、家庭や地域に最新情報を発する。	A	A	2 保護者のあまりできていないが14%で他より若干多い。教員の保護者との対応をより丁寧に行い、信頼関係を深めていく。
	進路指導	進路指導体制の充実	4	⑤	卒業後の自立と社会参加をめざし、関係機関と連携して進路指導を行う。	A		3 総務部と教務部の校内の発信体制を整え、より教員が負担なく発信できるようにし、継続していく。
			5	⑤	将来像を見据え、教員や保護者の進路意識を高める研修会を行う。	B	A	開校初年度であるが、保護者の評価は高い。
	教職員の資質向上	実践的指導力と専門性の向上	6	②	教育愛と使命感を持ち、特別支援教育の専門性を高める研修を行う。	A		4 教員の「あまりできていない」が17%で比較的多い。卒業後の進路に係る関係機関との連携は昨年度から引き継いで連携しているが、小・中学部の教員には見えにくい。校内での進路に関する発信を行い、職員への研修を継続し積み重ねていき、小・中学部の教員も卒業後の進路を意識して指導に取り組むよう進める。
			7	②	一人一人の目標と手立てを踏まえた指導案を作成し、授業力を向上させる。	B		6 開校初年度のスタートに向けて、4月当初の特別支援教育に携わる教員としての素地を築く研修を行ったことの成果ととらえる。
	防災・安全教育・危機管理	危機管理体制の充実	8	①	障害の重度・重複化、多様化に対応して安全点検を行い、学習環境の改善を図る。	B		7 Bであり、「あまりできていない」が19%あるが、特別支援教育の経験が少ない教員が多いなかで、評価として比較的よい結果と考える。夏季休業中に職員研修週間を設け、校内授業研も行ったが、より指導力を高めるため、本校の実情に応じた職員研修の内容を考え、実施していく。
			9	①	防災・不審者対応訓練、交通安全教室を実施し、状況に応じた行動ができるよう避難学習を行う。	A	A	8 初年度であり安全点検の体制づくりに時間を要した。現在は試行的に実施しているが、よりよく、本校に合ったものになるよう検証しながら整えていく。
		個人情報の保護	10	①	児童生徒の個人情報(名前や写真など)を適切に管理する。	A	A	9 各教員が防災意識を持ち、前向きに取り組んだ。回数を重ねながら検証を繰り返し、改善しながら本校に即した訓練マニュアルを作っていく。
		健康管理	11	①	児童生徒の体調の変化等の観察を行い、感染症等に関する情報収集に努め、学校医、学校薬剤師等と連携しながら予防対策を徹底する。	A		10 ブログの写真等毎回丁寧に掲載の確認を行っていることで保護者から評価を高いと考える。教員の評価できていないが8%ある。少ない方だが、0に近づくよう、より個人の意識を高めていく。

教育課程	個に応じた指導の充実	一貫教育の推進	12	②	小・中・高で児童生徒及び指導支援の情報を共有し、連続した指導を行う。	B		12 「できていない」と感じている教員が39%いる。組織体制としては年度末に引継ぎを行うが、短い期間での機会を設けていない。個人や学年、学部で裁量によるところが大きい。学部を超えて教員同士が会話したり、児童生徒に関わったりする雰囲気をつくっていく。
		個別的教育支援計画の活用	13	②	児童生徒の将来像や伸ばしたい点など、一人一人の教育的ニーズに基づいて目標を設定し、地域資源を活用するなど適切な支援を実現する。	A	A	13,14 個別の支援・指導計画の保護者の評価が高く、日々の教員の取組み、保護者との連携がうまくいっていると考えている。
		個別の指導計画による指導の充実	14	②	個別的教育支援計画を踏まえて実態に応じた具体的な目標と手立てを定め、適切な指導や評価を行う。	A	A	16 「あまりできていない」が22%ある。特別支援の授業においてチームティーチングは基本だが、役割分担の打合せやサブティーチャーの動きは経験にもよる。スキルアップを図る研修と意識づけを行っていく。
		指導方法や指導体制の工夫	15	②	各教科等における個別の目標に基づき、興味・関心、得意分野を生かすなど指導の手立てを工夫する。	A		18 ICT活用は、より効率よく、新しい使い方の研修を行い、積極的・有効的に使えるようにする。
			16	②	個別の目標や指導の手立てを共通理解し、指導者間の役割分担とチームワークで授業の充実を図る。	B		
		自立活動の指導の充実	17	②	的確な実態把握に基づき、児童生徒一人一人の目標及び課題を明確にし、指導及び支援内容の設定を行う。	A		
		ICTの効果的な活用	18	②	ICT機器を効果的に活用することで個々の児童生徒に応じたきめ細かな指導・支援を行い、学習活動の充実を図る。	A	B	
	自立と社会参加の促進	体験活動	19	④	教科等の学習と体験活動を関連づけることで意欲を引き出し学習効果を高める。	A		19 授業、行事、宿泊学習等で、児童生徒の意欲を高め取り組むことができていると考える。
			20	④	家庭生活や地域生活に結びついた体験活動で自立と社会参加への意欲と態度を養う。	B	A	20,21 地域資源として、ハード面とソフト面の活用を探り、校内外合わせ児童生徒の教育活動を充実させていく。
		集団活動	21	⑤	豊かな人間関係を育むために、年齢や障害の違いを超えたより活発な集団活動を計画する。	B		
課題教育	人権教育	人権教育の推進	22	②	児童生徒が社会で生き生きと暮らせるよう、命の大切さや思いやりの心、コミュニケーションの力、ルールやマナー等を育成する。	A	A	22,23 日々の教員の児童生徒との接し方と、行事の取組みに現れていたと考える。教員において「あまりできていない」が16%あり、一定数十分でないと感じている。日頃のお互いの言葉や態度について、さらに意識を高め、大人にとっても、児童生徒にとっても温かく、思いやりにあふれた学校づくりに努めていく。
		人権意識の向上	23	②	人権に配慮した指導(言葉遣いなど)やいじめ早期発見のいじめアンケートを定期的実施する。いじめを許さない学校をテーマとして、人権を意識した研修に取り組む。	B	A	
	交流及び共同学習	居住地校交流及び学校間交流の推進	24	③	年間計画を立てて育てたい力を明確にし、児童生徒同士の充実した活動になるようしっかり打ち合わせを行って実施する。	B		教員が「B」評価であるが、開校初年度であり、探りながらのスタートであった。居住地校・学校間交流、地域住民との交流とも、継続しながら交流を深めていく。
		地域との交流	25	③	校内における地域住民との交流活動の充実を図り、積極的にかかわりを持つ。	B	A	
	保健・健康指導	食育の推進	26	①	教育活動全体において食育を推進し、食への関心を高め、家庭と連携して望ましい食習慣の確立を図る。	A	A	保護者の「A」評価が95%のなかで「できている」が57%とかなり評価が高い。給食の内容やアレルギー対応、栄養教諭と担任・保護者との連携により、児童生徒が食事や給食に興味を持ったり、いろいろなものを食べるようになったりしている。将来に向け、より食への関心を高め、健康で豊かな生活が送れるようにする。
	センタ－的機能	校外支援の取組	27	②	地域の学校や保護者のニーズを把握し、教育相談や講師派遣、就学相談、進路相談等、地域のセンタ－的機能の充実を図る。	B		担当が校内支援を兼ねているため、十分な時間確保が難しいが、市町と連携し一定数行うことができた。就学支援の充実と理解・啓発も行うことができたが、さらに連携を深め、適切な就学指導と支援体制を整えていく。
全体総括						・全体で「C」がなく、おおむね良いが、より「A」が増えるよう改善していく。 ・引き続き校内研修の充実をはかり指導力・授業改善を図る。 ・保護者との連携を進めてより信頼関係を深める。 ・地域への発信、連携を進めて地域との結びつきを深める。 ・定期の安全点検を含め、日頃より学校内設備・環境を整え、安全・安心に学校生活が送れるようにする。		